

# 双方向コミュニケーションの充実 ～ベビーサインを実践して～

○江頭唯 福田奈々子 田中知恵子 和田英美 (いこま乳児院)

## I. はじめに

乳児院とは、様々な事情により保護者の養育を受けることが出来ない乳幼児を、家庭に代わって養育する施設である。また、乳幼児の基本的な養育機能に加え被虐待児、病虚弱児、障害児等に対応できる専門的養育機能を持っている。

当院では 0～3 歳までの乳幼児が生活しており、この時期は心身の発育、発達が著しく個人差が大きいいため、一人ひとりの発育、発達を見極めた、きめ細やかな養育が必要である。また、人間形成の土台となる大切な時期の為、入所から退所まで担当養育者を変えない一貫した担当養育制を行い、子どもの発達における愛着形成の重要性を考慮した養育を行っている。一方で、24 時間施設であるため、職員が交代で勤務していることにより、子どものニーズを的確に把握出来ないもどかしさがある。

当院で生活している子どもたちは、話し言葉を習得する前の乳幼児が大半であり、泣き声や表情などのボディーランゲージで思いを伝えている。しかし、集団生活の中で自分自身の思いが伝わらないことにフラストレーションを感じて、癩癢や他害行為<sup>1</sup>などで表現する事がある。

その為、子どもたちと養育者との間に共通に理解できるわかりやすいサインがあれば、的確に子どもたちのニーズにこたえることが出来ると考えた。より明確に子どもの意思を汲み取り、安心して生活出来るよう、ベビーサイン<sup>2</sup>という育児法を実践したのでここに報告する。

## II. 方法

### (1) 対象

生後 5 ヶ月～2 才 10 ヶ月の乳幼児  
17 名  
全職員（保育士、看護師、管理栄養士、調理員、心理士、事務員、院長）  
30 名

### (2) 期間

令和 2 年 2 月 1 日～令和 2 年 8 月 31 日

### (3) ベビーサインの導入及び、実施手順

#### 1) ベビーサインの選定・ルール決め

ベビーサインを使う為に必要な身体の運動機能が整い始める生後 5 ヶ月から、退所までの乳幼児を対象にベビーサインを使う事にした。職員が共通してベビーサインを使用するために、ルールを策定した(表 1)。

表 1: ベビーサイン使用ルール

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① 日々の決まっている行為を行う時、子どもに話しかける時に保育者がベビーサインを示しながら、言葉かけを行う。</li><li>② 保育者の身振りと言語はどちらもゆっくりと明瞭に行う。</li><li>③ ベビーサインは子どもに教え込んだり強要したりせず、コミュニケーションとして楽しむ。</li></ol> |
|---|

- 1 叩く、引っ掻く、噛む等で他者に危害を与える行為。
- 2 ベビーサインとは、話し言葉を習得していない乳幼児と、簡単な手話やジェスチャーでコミュニケーションを行う方法として、アメリカで考案されたものである。

使用するサインは、ベビーサインや日本手話という公に使われているサインを用いる手話準拠型をベースに、以前より職員と子どもたちとの間で自然偶発的に使用していたジェスチャーを織り交ぜた、乳児院オリジナルのサインを使用した。サインとして使用する語彙は、生活に密着したものを中心に、子どもたちが伝えたい気持ちを表現出来るものを選定した。

## 2) 職員に対するベビーサインの教育・指導・普及活動

毎月の職員会議にて、ベビーサインの勉強会を行い、全職員が共通した認識で活用できるようにした。サインは覚えやすい14個から開始し、毎月職員から必要なサインを募集した。現在は34個のサインを使用している(表2)。

表2: ベビーサイン種類

・もって	・やって	・ちょうだい
・ミルク	・お茶	・おしまい
・おはよう	・手を洗う	・ありがとう
・嬉しい	・ねんね	・お風呂
・だっこ	・美味しい	
〈追加したサイン〉		
・散歩	・だめ	・うんち
・替える	・痛い	・歯磨き
・食べる	・おやつ	・虫
・どこ?	・絵本	・車
・飛行機	・電車	・花
・次だよ	・ごめんね	・靴
・できた	・一緒	

また、サインのポーズと使用例を書いた一覧表(図1)を各クラスやホールに掲示した。トイレや脱衣所、食堂などには、場所ごとに使用頻度の高いサインのみを掲示し、散歩時にはキーホルダー型にして携帯し、常に目に触れる環境にした。子どもたちに

対して、ベビーサインが言葉を表すシンボルである事を理解しやすいように、使用しているサインを用いたオリジナル絵本を作成した。

## 3) 評価方法

### i) 他害回数カウント・直接観察法の実施

ベビーサイン導入時(3月)から半年間、子どもたちの他害回数と使用したサインの種類を集計した。また、ベビーサインを用いる様子を直接観察法にて記録した。評価対象は、ベビーサイン導入月の他害回数が最も多いクラスの全児6名(年齢が1歳2ヶ月~2歳0ヶ月)とした。対象児の発語は喃語から不明瞭な単語のみ(遠城寺式乳幼児発達検査の発語の項目結果が月齢に対して平均値5.8ヶ月の遅れがある)であった。

### ii) 職員アンケート

2月と8月のベビーサイン導入前後に、全職員対象に無記名のアンケートを行った。子どもたちとのコミュニケーションに対して、選択式と自由記述型にて行った。

## III. 結果・考察

### (1) 他害回数カウント

ベビーサイン導入時から半年間の経過を図2に示す。1クラス全児6名の他害回数合計は、ベビーサイン導入時から半年間で33%の減少がみられた。幼児教育専門家バートン・ホワイトは「17ヶ月から20カ月のあいだは普通の子どもにとってフラストレーションに対する耐性が大変弱い時期であり、自分自身を表現できないことがその問題をより大きくしている。」<sup>1)</sup>と述べている。このことから、子どもたちがベビーサインを習得し意思を表現できたことがフラストレーションの軽減につながり、他害回数の減少結果になったと考える。このことから、ベビーサインは他害を改善させる方法

の一つであると示唆できる。

しかし、7月の他害回数は前月より11%の増加が見られた。当月は短期入所児を1名受け入れた月であり、人的環境の変化により、不快な緊張や不安が発生した事が他害回数の増加した原因につながったと考えられる。

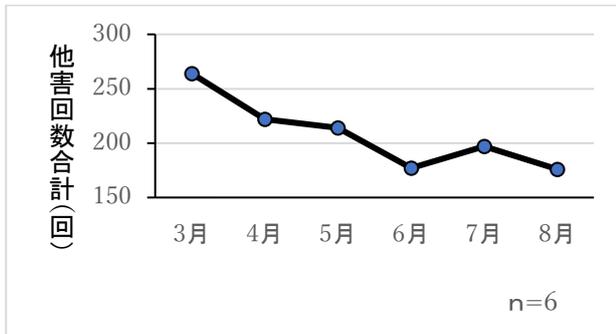


図2：他害回数合計（延べ数）

## (2) 直接観察法の結果

### i) 語彙の種類

提示した34種類のサインのうち26種類のサインを子どもたちは使用していた。(図3・4・5) その中で「もっと」「やって」「ちょうだい」は全員が使用した。半数以上が使用したサインは「ねんね」「おしまい」「手を洗う」「ありがとう」「おいしい」である。

「もっと」「やって」「ちょうだい」は食事や遊びの場面で子どもたちの欲求として表現されることが多く、「ねんね」「おしまい」

「手を洗う」「ありがとう」は保育者からの言葉かけを模倣して頻回に使用することがあった。「虫」や「花」などの名詞のサインは、上記のサイン習得後に使用されていた。

話し言葉を獲得していない子どもにおいて、「もっと」「やって」「ちょうだい」などの主観的な語彙は他者に伝える事が難しい。しかし、ベビーサインを使用し他者に思いが伝わる経験により、ベビーサインが主体的に表現できるツールであるという認識が作られたと言える。その成功体験から、主観的な語彙だけではなく、虫や花などのサインも用いてコミュニケーションを楽しむ姿につながったと考えられる。



図3：保育者が「おやつ時間だよ」と声をかけると『おやつ』のサイン



図4：虫を見つけて『虫』のサイン



図5：牛乳をおかわりしたくて『もっと』のサイン

## ii) 子どもの反応

### 事例①A君の場合（1歳2ヶ月）

ベビーサイン導入前、有意味語の発語は無かった。抱っこをして欲しい時や食事のおかわりが欲しい時等、すべての欲求を甲高い奇声で表現していた。ベビーサイン導入後、児は開始1カ月で5種類のサインを習得し、自ら積極的に使用するようになった。開始3か月では12種類を習得、使用できるようになり、その頃には、欲求を表現する時の奇声は消失していた。この背景には、集団の中で埋もれてしまい、甲高い奇声でしか思いを表現することが出来なかった本児の思いがあり、ベビーサインで表現しても理解してもらえ、という成功経験を繰り返すことで、本児の表現方法が変化したと考える。

### 事例②Bちゃんの場合（1歳8ヶ月）

ベビーサイン導入と同時期に入所してきた。入所当初は有意味語の発語は無く、場面転換が苦手であり、活動が切り替わるたびに泣いて抵抗していた。その為、写真カードを提示して次の活動を伝えると同時に、サインを使用し、自分の気持ちを表現出来るよう促した。その結果、泣かずに場面転換出来る機会は増え、納得できずに泣いている時も、サインで表現すると、保育者と意思疎通出来るようになった。

スピーチコミュニケーション学の教授であるマリリン・ダニエルズは、「サインと言語を同時に教えると、サインの方が言語より早く使われるようになる」と述べており、その理由を、「聴覚モード・視覚モード・筋感覚モードで単語を伝えるからである<sup>2)</sup>」としている。聴覚のみを用いる「言語」でのやりとりが難しかった本児にとって、視覚や筋感覚を伴うベビーサインは、受容し易い表現方法であったと推測できる。

### 事例③Cちゃんの場合（1歳8ヶ月）

ベビーサイン導入前、発語はあったものの、自発的な発語は無かった。ベビーサインも、発語同様、保育者を真似て使用することはあったが、自発的な使用はほとんど見られなかった。赤津純子は「ベビーサインは1語文、2語文の生成において言葉を先導するが、急速に言葉に置き換えられていく。」<sup>3)</sup>と述べており、本児も同様に、急激に発語を習得し始めた頃より、ベビーサインは減少し、その後ほとんど使用しなくなった。

児は月2回、両親との面会を行っており、両親との面会時は、毎回とても緊張し、神経を張り巡らせ、思いを泣いて表現していた。しかし、ベビーサイン導入5か月後の面会では、両親に玩具を貰った際、無言のまま「ありがとう」のサインを使って表現することが出来た。保育者がすぐに理解し、両親に説明をすると、両親は本児がサインを用いて表現してくれたことに、感動していた。

赤津純子は「ベビーサインを取り入れた育児の効果」において、ベビーサインをほとんど用いない発達段階の児が、切迫した場面ではサインを使用した例<sup>4)</sup>を報告している。面会時は、本児も同様の状況であったと推測でき、言葉を発しにくい場面でも、ベビーサインは有効であると考えられる。

また、本児がサインで表現したことで、両親は本児に対し喜びや愛しさを感じたと推測できる。吉中みちるは「ベビーサインは親と子の絆を深める<sup>5)</sup>」という効用を挙げており、乳児院という特殊な親子関係下でも同様であると考えられる。

## (3) 職員アンケート

「子どもの要求を理解できない時があるか」という問いに対しての結果を図6に示す。

ベビーサイン導入前の2月は、ある・たまにあるが100%だったのに対し、ベビーサイン導入後の8月は82%に減少した。

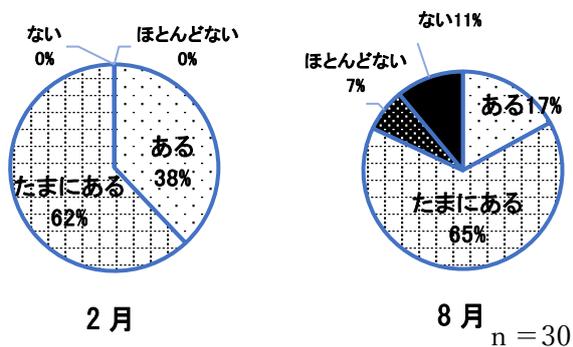


図6:「子どもの要求を理解できない時があるか」

カリフォルニア大学デイビス校の育児研究センターでの研究では、「ベビーサインで赤ちゃんは自分の欲求を保育士に分かってもらい、保育士は赤ちゃんをよりしっかりと見るようになるので赤ちゃんのニーズにより早く適切に対応できるようになった」<sup>6)</sup>と述べている。また同校クレア・ヴァロトンのベビーサイン育児を導入した家族を対象とした実験結果に、「ベビーサインを使うと、ふれあいの中で親が子どもの感情をよりよく理解する傾向がある。子どもから親にコミュニケーションしようとする事が増える。子どもがぐずった時に親がより適切な対応をすることが多くなる。」<sup>7)</sup>とある。このことからベビーサインによって実際に子どもの欲求が理解できただけではなく、保育者がより適切に子どもの欲求を理解しようする気持ちが増え、観察力が高まったことも子どもの伝えたいことが理解出来た要因になったと考えられる。

#### IV. 結論・今後の課題

明確に子どもの意思を汲み取り、安心して生活出来るよう、ベビーサインという育児法を検証した。

子どもたちの中で、ベビーサインが主体

的に自己表現できるツールであるという認識が作られ、他害回数の減少や、奇声での欲求の表出が消失した。ベビーサインでのスムーズな場面転換や、緊迫した場面での自己表現などもみられ、ベビーサインは自分の存在や気持ちをアピールする上で有効であることが示唆された。

一方、職員にとっても、ベビーサインを活用することで、よりの確に子どもの思いを理解することができ、養育内に生じる不安感の緩和や自信につながった。

ベビーサインによって双方向のコミュニケーションが充実することで、応答的な環境が保障され、子どもたちはより安心して生活出来ると言える。今後は、家族支援や里親支援でも活用し、継続的な双方向コミュニケーションを実現したい。

#### 引用・参考文献

- 1) Joseph Garcia, *Sign with Your Baby: How to Communicate with infants before they can speak*, Bellingham: Stratton-Kehl Publications, Inc., 5-6, 2000
- 2) Marilyn Daniels, *Dancing with Words: Signing for Hearing Children's Literacy*, Westport: Bergin & Garvey, 2000
- 3) 赤津純子: ベビーサインを取り入れた育児の効果(Effects of Baby-Signing on Childrearing), p3, 科学研究費助成事業研究成果報告書, 2016.
- 4) 赤津純子: ベビーサインを取り入れた育児の効果(Effects of Baby-Signing on Childrearing), p3, 科学研究費助成事業研究成果報告書, 2016.
- 5) 吉中みちる・まさくに: 親子で楽しむベビーサイン赤ちゃんとお手てで話そう, pp. 20. 27-30, 実業之日本社, 2009.

- 6) リンダ・アレクドロ, スーザン・グッドウィン共著, 吉中みちる・まさくに訳: 最新ベビーサイン, pp. 201-202, 株式会社主婦の友社, 2010
- 7) リンダ・アレクドロ, スーザン・グッドウィン共著. 吉中みちる・まさくに訳: 最新ベビーサイン, pp. 215-217, 株式会社主婦の友社, 2010

# みんなでやろう ベビーサイン

<p><b>もっと</b></p>  <p>すぼめた両手の指先をトントンと触れ合わせる</p>	<p><b>ちょうだい</b></p>  <p>両手をトントンと重ねる</p>	<p><b>やて (お願い)</b></p>  <p>両手で胸をトントンとたたく</p>	<p><b>お茶</b></p>  <p>人差し指で口元を触る</p>	<p><b>ミルク</b></p>  <p>片手をグーパーする</p>	<p><b>おしまい</b></p>  <p>指をすぼめながら手をあふる</p>	<p><b>おはよう</b></p>  <p>軽く握った片手をこのかみから下へおろす</p>
<p><b>手を洗う</b></p>  <p>両手をこすり合わせる</p>	<p><b>ありがとう</b></p>  <p>投げキス</p>	<p><b>うれしい・楽しい</b></p>  <p>両手のひらを体に向け、交互に上下させる</p>	<p><b>ねんね (おやすみなさい)</b></p>  <p>両手のひらを合わせて、ほっぺに当てる</p>	<p><b>お風呂</b></p>  <p>握った両手で体をこするように動かす</p>	<p><b>だっこ</b></p>  <p>両手を斜め前に差し出す</p>	<p><b>おいしい</b></p>  <p>片手でほっぺをバチバチと触る</p>
<p><b>帽子をかぶって外遊び</b></p>  <p>片手で頭をポーンと触る 「お外行こうね」</p>	<p><b>ウンチ</b></p>  <p>お尻をポーンとたたく</p>	<p><b>替える</b></p>  <p>握ったこぶしの手首を合わせ手首を軸に回す</p>	<p><b>痛い</b></p>  <p>伸ばした両手の人差し指をツンツンと触れ合わせる</p>	<p><b>歯みがき</b></p>  <p>片手で歯ブラシを持ちゴシゴシみがくように動かす。</p>	<p><b>食べる</b></p>  <p>指先をすぼめた片手を口元へ動かす</p>	<p><b>おやつ</b></p>  <p>片手の手のひらの上でクッキーの型をとるかに動かす</p>
<p><b>虫</b></p>  <p>親指を鼻につけ、伸ばした人差し指と中指を2〜3回曲げ伸ばしする</p>	<p><b>どこ?</b></p>  <p>片手の人差し指を左右に振る</p>	<p><b>絵本</b></p>  <p>合わせた両手をひらく</p>	<p><b>くるま</b></p>  <p>軽く握った両手をハンドルを回すように動かす</p>	<p><b>飛行機</b></p>  <p>親指・人差し指・小指を伸ばした片手を斜め上にあげる</p>	<p><b>電車</b></p>  <p>両手のヒジを曲げ車輪のよりに動かす</p>	<p><b>花</b></p>  <p>両手を軽く合わせて開いた花の形をつくる</p>
<p><b>靴</b></p>  <p>軽く握った両手をトントンと合わせる</p>	<p><b>~の次</b></p>  <p>ページをめくるように伏せた手を裏返す</p>	<p><b>ごめんね</b></p>  <p>彦夏の前で片手を出し、軽く会釈する</p>	<p><b>できた</b></p>  <p>拍手!!</p>	<p><b>一緒・同じ</b></p>  <p>両手の親指と人差し指をちんちん人と触れ合わせる</p>	<p><b>だめ・やめて</b></p>  <p>胸の前でバツをつくる「ダメだよ」で統一</p>	

図1: ベビーサイン一覧表